

小金井みんなの公園プロジェクト

play here

ビオトープづくりワークショップ

栗山公園の池をみんなで

人にも自然にもやさしいビオトープにしよう

(ということを通して、インクルーシブな社会にしていこう)

そのために、障害のあるなしに関わらずごちゃまぜになって

みんなでピクニックするところからはじめよう

日程：2026年1月18日(日)、2月1日(日)、2月21日(土)

時間：13時～16時

会場：栗山公園 小金井市中町2-21-1

対象：子どもから大人まで、どなたでも

定員：15組程度／事前予約制 [申込締切] 2026年1月9日(金)

*応募多数の場合は、「小金井市内在住・在園・在学の方」「全3回を通したご参加意向のある方」が優先となります。また、抽選になる場合があります。ただし、できるだけ「ひらいた場」としていきたく、遠方からのご見学や、まずは単発のお試し参加をご希望の方も是非、その旨をお申し込みフォームにてお寄せください。

*保護者同伴でのご参加をお願いします。子どもも大人もみんなでピクニック！

*台数に制限はありますが、駐車場の利用が可能です。

*園内の健康運動センターには、誰でもトイレがあります。また、ベッドのある医務室も多目的に利用できます。

公園を、障害のあるなしにも関わらず誰もが自由に遊べる場所にもっとしていきたい。ここで遊ぼう。小金井を、誰もがその想いを実現できるまちにしていきたい。play hereは、そのためのプロジェクトです。多くの方々の声と力により、令和7年度は、3つの公園(栗山公園・梶野公園・三楽公園)を舞台に、遊具やトイレなどの環境整備を進めることが叶いました。でも、それで終わりではありませんし、終わりにしてはいけません。それらを「みんなで」望むものにしていくための活動が欠かせません。その一つが、この「ビオトープづくりワークショップ」です。

主催：小金井みんなの公園プロジェクト「play here」

協力：社会医学技術学院 NPO法人東京学芸大こども未来研究所 栗山公園健康運動センター 日比谷アメニス

[お問合せ] 小金井市環境政策課 緑と公園係 [お申し込みフォーム]

tel. 042-387-9860

play hereの事務局メンバーとともに、理学療法士や作業療法士を育成する社会医学技術学院の先生や学生の皆さんや、小学校でビオトープをつくり活用してきた東京学芸大学の先生といっしょに、ワークショップを進めていきます。



小金井の公園をもっとインクルーシブに！？

どうなる？どうする？どうすべき？

プログラムの考え方

このワークショップシリーズは、「ビオトープづくり」を目指すものではありませんが、それだけを目的とはしていません。どちらかと言うと、【公園に来づらかった方が訪れるきっかけになる】【そして、これからも継続的に訪れやすくなるための関わりをつくる】【地域を舞台にした学び合いの場をつくる】ということを大切にしています。また、冬季ということもあり、水に濡れる作業は避けて、まずは関心をお寄せくださった方々と、温かいお茶を飲んだり、知り合いになったり、お話をしたり耳を傾けあったりといった、一緒に過ごす時間を大切にしたいと考えています。ですので、ワークショップよりも、ピクニックとしたほうがしっくりきています（本格的なビオトープづくりの作業は来年度を予定しています）。

もう少し言います。様々な人が集い、同じ作業をする。そういった共同作業を大切にしていきたいと思いますが、必ずしも、それだけでなくても良いと考えています。途中から参加する。途中まで参加する。途中でみんなとは違うことをする。そういった不揃いもよしとしたいと考えています。何かご不明な点や気がかりな点等がありましたらお気軽にお寄せください。みなさまの参加をお待ちしています。

基本的な流れ

- ①みんなで持ち寄ったお茶やお菓子を囲みながらおしゃべりする
- ②フィールドワークやワーク（テーマに基づいた散策やお絵描きや写真撮影）
- ③もういちど、おしゃべりする

ピクニック気分でお越しく下さい

ピクニック1：まずはご挨拶

1月18日(日)

このプロジェクトの概要や想いの共有／play hereに期待することは？／どんな興味関心がある？／栗山公園ってどんな公園？／武蔵野の自然とは？／参考にすべき事例って？／ビオトープがあることの意味とは？

ピクニック2：夢をふくらましたい

2月1日(日)

これまでのふりかえりと共有／どんなビオトープにしていこうか？／どんな生きものに訪れてもらいたい？／ビオトープをつくった後に育むってどういうこと？

ピクニック3：夢を叶える方法も考えたい

2月21日(土)

これまでのふりかえりと共有／使い手が担い手になるってどういうこと？／どんなお世話が必要？

#そこに居ていいと思いたい
#力エルやトンボにも居て欲しい
#地域の人の知ってもらいたい
#蚊を減らすには
#地域の自然を身近に感じたい
#カルガモの親子にも居心地の良いビオトープを
#まじめと気軽さの両立